



社団法人 日本化学会

目的

本会は、会員の研究発表、知識の交換並びに会員相互間及び内外関連学協会との連絡連携の場となり、化学に関する学術の進歩普及、産業の発展および生活の向上に寄与することを目的とする。（定款第5条）

沿革

- 1878年（明治11年） 化学会創立、翌年、東京化学会と改称
- 1898年（明治31年） 工業化学会創立
- 1921年（大正10年） 東京化学会が日本化学会と改称
- 1948年（昭和23年） 日本化学会と工業化学会が合併
- 1991年（平成3年） 化学会館竣工

役員

- 会長 中西宏幸（三井化学株式会社）
- 筆頭副会長 岩澤康裕（東京大学）
- 副会長 新海征治（福岡市産学連携交流センター）
- 同 高橋里美（株式会社カネカ）
- 同 大寫幸一郎（京都大学）
- 同 澤田嗣郎（科学技術振興機構）
- 同 山岸 隆（帝人株式会社）
- 理事 19名 常務理事 1名 監事 4名

- 所在地 東京都千代田区神田駿河台1-5、全国に7支部
- 会員数 32,263名（平成20年2月末現在）
- 常勤職員 37名（平成20年2月末現在）
- 予算規模 年間約10億円

主な事業

- 研究集会の開催（年会、シンポジウム、講演会他）
- 出版（機関誌、論文誌、ニュースレター、書籍）
- 教育・普及事業（初中等教育、技術者教育、普及・啓発）
- 国際交流、産学交流、環境安全推進、男女共同参画推進、化合物命名法政策提言、調査・研究、委託事業

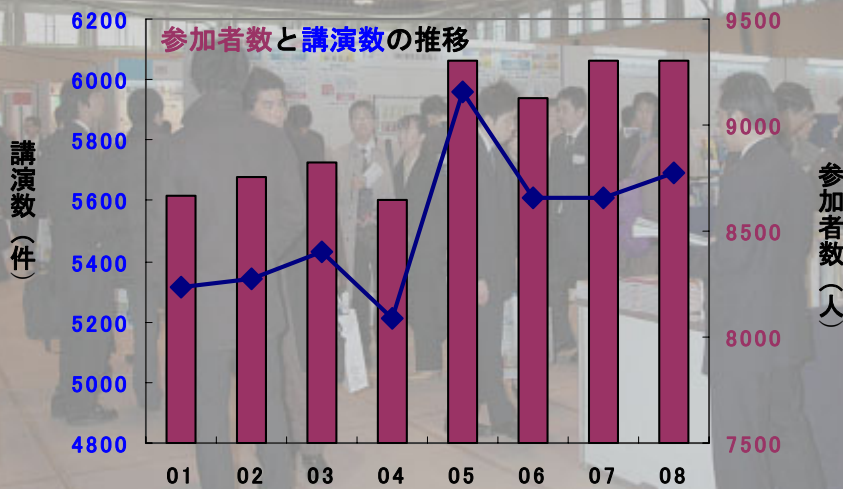
春季年会

6,000 件の講演と 9,000 人が集まる国内最大級の研究集会

並行して、多数のシンポジウム、市民公開講座を開催

2008 年立教大学池袋キャンパスの大会では「市民公開講座」、「拡大博士セミナー」、「アジア国際シンポジウム」などのほか、倫理委員会、男女共同参画委員会、環境安全推進委員会、化学遺産委員会などが、シンポジウム、展示会、工場見学などを企画・開催した。

2005 年から産業界向けプログラム ATP を開始「デジタル社会を支える材料化学まで」発表 400 件



ノーベル賞受賞記念講演

出版

機関誌「化学と工業」一般会員向け
「化学と教育」教育会員向け
他 部会のニュースレター



論文誌 (英文)

Bulletin of the Chemical Society of Japan

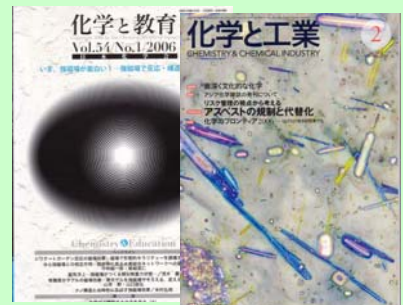
80 年の歴史をもつわが国の化学を代表する英文論文誌

Chemistry Letters

投稿から掲載までは世界最短 (約 1 ヶ月)

The Chemical Record 国内 8 学会の共同誌

Chemistry - An Asian Journal アジアの連合誌



書籍

化学便覧 基礎編、応用編 (丸善)

実験化学講座 (丸善)

季刊化学総説 (学会出版センター)

他多数



教育・普及

教育会員約4000人（教育誌購読正会員を含む）

機関誌「化学と教育」を発行

理科離れの防止と人材育成

全国高校化学グランプリ

→国際化学オリンピックへ代表派遣

→2010年国際化学オリンピック日本開催

普及活動（本部・支部）

化学展、出前授業、化学クイズショー

実験教室

化学普及書の発行、教育政策提言

化学だいすきクラブ・化学だいすき基金

化学の好きな子供のためのクラブ

小・中・高生対象



産学交流・人材育成

産学交流委員会 有力法人正会員90社の代表とアカデミアの委員で構成

産学交流フォーラム、技術開発フォーラム、博士セミナーなどを企画・実行

R&D懇話会

企業所属会員による少数勉強会（エレクトロニクス、基盤技術、ライフサイエンス等）

実力養成化学スクール 「仕事のできる化学技術者作り」

高分子化学、有機化学、物理化学、生物化学、応用物理、倫理・環境・安全の各講座

就職支援

大学・企業人事担当者交流会、企業説明会、求人・求職案内

国際交流



環太平洋国際化学会議(PACIFICHEM)

5年に一度ホノルルで開催

現在、日米加・韓国・豪州・ニュージーランド、中国の化学会が共催

2005年12月開催、世界70ヶ国 11,500人が参加(日本から5,100人)

世界主要国化学会長会議(C6)

日米英独仏蘭の6ヶ国の化学会長が集まり、共通の問題を討議

2004年に東京、2007年にフランスで開催、次回はアムステルダムで開催予定

国際純正・応用化学連合(IUPAC)

世界80余国が参加する化学の国連

日本化学会は賛助会員の事務局。また、日本語の化合物命名法を決定。

アジア化学会連合(FACS)

アジアの化学会の連合、日本化学会は主要メンバーのひとつ

2007年の年会中に役員会とシンポジウムを開催

その他、米国、ドイツ、英国、イタリア、韓国等々と二国間交流、これからアジアに注力

入会のご案内

個人会員

| | |
|---------|---------|
| 入会金 | 1,000 円 |
| 年会費 正会員 | 9,600 円 |
| 教育会員 | 7,200 円 |
| 学生会員 | 6,000 円 |

特典 機関誌送付

正会員「化学と工業」
教育会員「化学と教育」

年会への参加

論文誌の購読（含む電子版）

当会が主催・共催する行事

へ割引参加

ディビジョン・部会への参加

法人正会員

年会費 1口 25,000 円 4口以上

法人正会員には、口数に応じて、機関誌、論文誌の送付・アクセス権付与、年会への参加、化学会館の利用などの特典がありますが、基本的に法人会費は、当会の活動への支援であり、わが国の化学の活性化と進歩に資するためのものであることをご理解ください。

電話でのお問い合わせ

| | |
|-----------|-------------------|
| 総務部総務（代表） | TEL 03-3292-6161 |
| | FAX 03-3292-6318 |
| | 以下、局番共通 |
| 入会のご案内 | TEL 6169 FAX 6317 |
| 年会のご案内 | TEL 6163 FAX 6318 |
| 会議室利用の申込み | TEL 6161 FAX 6318 |
| 論文誌購読 | TEL 6169 FAX 6317 |
| 広告掲載のご案内 | TEL 6165 FAX 6319 |
| 支部 北海道支部 | TEL 011-706-7116 |
| 東北支部 | TEL 022-795-5871 |
| 関東支部 | TEL 03-3292-6163 |
| 東海支部 | TEL 052-231-3070 |
| 近畿支部 | TEL 06-6441-5531 |
| 中・四国支部 | TEL 082-420-0037 |
| 九州支部 | TEL 092-642-3574 |

各種申し込みはホームページ上でできます。

<http://www.csj.jp>

日本化学会会員の行動規範

社団法人日本化学会は、化学が人類の発展と地上生態系とが共存できる社会を築くために必須の化学であることを誇りとし、その会員が、社会における自らの使命と責任を自覚し、良識に基づいて誠実に行動するための行動規範を定める。

日本化学会会員（化学者および化学技術者）は、人類、社会、自らの職業、地球環境、および教育に対して専門家として責任を負う。

1. 人類に対する責務
2. 社会に対する責務
3. 職業に対する責務
4. 環境に対する責務
5. 教育に対する責務

各項目の詳しい内容、および会員の行動指針はHPで御覧ください。

<http://www.csj.jp/rinri/index.html>

化学会館へのご訪問

